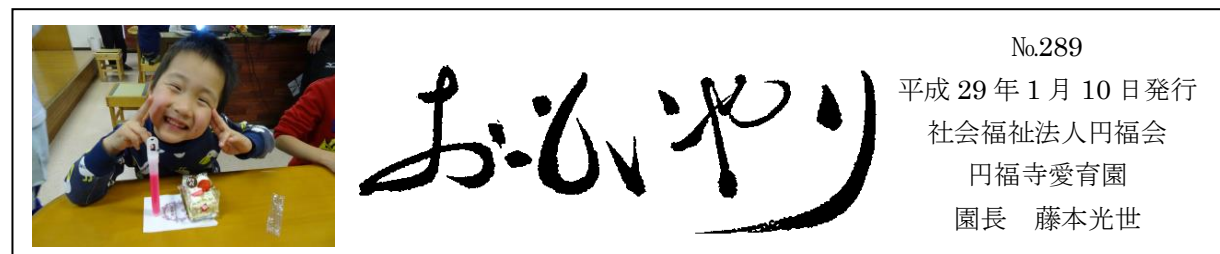


クリスマス特集号です。写真はケーキを前に嬉しそうな児童



大好き

園長 藤本光世

12月はクリスマス行事でした。

イルミネーションづくりから始まったクリスマス行事は、25日にサンタさんのプレゼントで終わりました。その様子を書きたいと思います。

イルミネーションは、昨年末にさがみ典礼さまから頂いた大きなご寄付を使ってできました。職員がデザインして、子どもたちが登校した後で、寒い中を、何時間もかけてセットしてくれました。高所作業が多くて心配でした。終盤には中高生の男の子も手伝ってくれて、予定通りに完成しました。児童棟の入り口はイルミネーションの門ができ、管理等の庭には輝くツリーができて、食堂への通路の軒下は紫色の光に包まれ、子どもたちは「ディズニーランドのようだ」と言っていました。

クリスマスツリーには、恒例で子どもたちが作ったクッキーを飾ります。飾られた翌朝に食堂へ行くと、子どもたちは私の手を引いてツリーのところに連れて行って、これは誰ちゃんが作ったの、これは私が作ったのと、大騒ぎになりました。嬉しく誇らしかったんでしょうね。

12日の朝には、朝のほんのわずかな時間だけ、ツリーの隣にサンタさんポストが置かれました。ポストの屋根には煙突に入ろうとしているサンタさんがいます。子どもたちは先生からもらった綺麗なデザインの特別な手紙にお願い事を書いて、サンタさんに届けとポストに入れます。その朝は、子どもたちがポストの周りに手紙を持って集まって、入れようか入れまいかと願いが届くようにのが気持ちを込めて、投函していました。その仕草に子どもたちの心がいじらしいほど表れていました。

23日は、クリスマス会がありました。会場は管理棟玄関ロビーです。白いクリスマスツリーがセットされ、職員が会場をイルミネーションで美しく飾りました。電気が消されて、雰囲気は最高です。子どもたちにはイルミネーションのスティックが渡されました。イベントは高校生のキャンドルサービスから静かに始まりました。イルミネーションスティックを振りながら「サンタが街にやってくる」をみんなで歌って雰囲気が盛り上がりました。そして、パネルシアターによるサンタさんのお話し。サンタさんが困っている子どもたちになんでもプレゼントしてしまう、ホワイトボードとパネルを使ったお話に子どもたちは集中し、一緒になって楽しみました。そして、高校生と先生のマジックショー。風船割に会場が湧きました。楽しかったね。風船を持たされたSちゃんの姿

がとってもほほえましかった。



先生方のハンドベルの演奏と、グラスハーブの演奏がありました。最後にみんなで歌を歌い、食堂でおいしいケーキを食べてお開きになりました。

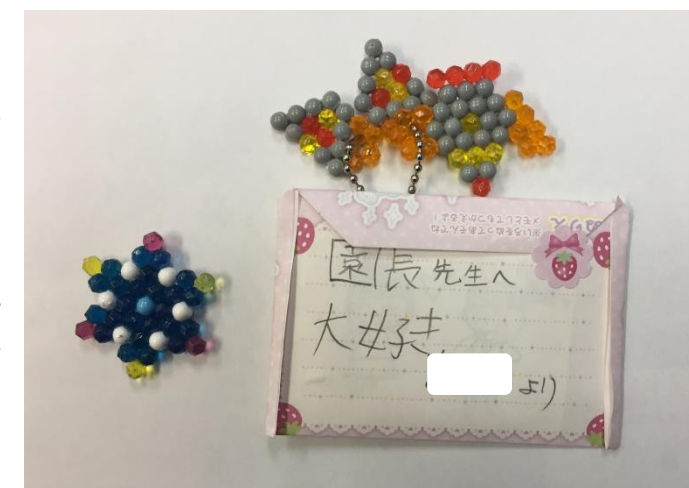
大きな子どもたちは小さな子どもたちを喜ばせてあげることに一生懸命です。小さな子どもたちが喜んでいる姿を見て、自分もうれしい。そんな一体感が表れていました。そしてそのあとの片付けも手伝って素早くできました。

25日は、サンタさんがプレゼントを届けてくれるというので、朝の5時20分頃には園に行きました。子どもたちは、もう起き始めていて、プレゼントの包みをもってうれしそうに開けていました。お手紙に書いてお願いした品物が届いていて、よろこびが爆発しました。おまいの時間になると、ちゃんとわかって、しっかりと片付けて早めに談話室に入り、おまいは大きな声が響きました。

翌日に、サンタさんからもらったビーズ玉でつくった細工を子どもが届けてくれました。私にあげて、私が喜んでいるのを子どもは喜んでいました。そこに「優しい園長先生大好き」と書いてありました。私も「大好き」と返しました。

子どもたちに優しくできるのは、職員が子どもたちをしっかりと指導してくれていて、二重三重の指導で脇道に逸らせないからです。その指導に乗った子どもたちが嫌いなことでも、何でも一生懸命にやれるようになったからです。クリスマスイベントも、外れて斜に構え、雰囲気を壊す子は一人もいないで、みんなで楽しむことができるようになったからです。みんな一緒にの楽しさを共有して、心から楽しめるようになったからです。

全ては職員のお陰です。一つ一つのイベントに職員心がこもっています。職員の子どもの



ためにする努力を讃えたいと思います。とっても感謝しています。

平成 29 年はどんな年になるのでしょうか。一つ言えることは、私たちの養育力がもっと高まり、子どもたちが自信を持ち、園の生活を楽しみ、心を満たされて、もっと前向きに生活を送れるようになることです。きっとそうなるでしょう。

2 学期を振り返って

副園長 青谷 幸治

新年、明けましておめでとうございます。本年も子どもたちと元気に毎日過ごしていきたいと思っています。

さて 2 学期ですが、学校生活も園での生活にも慣れが始め、いろんな問題行動が起こり指導する機会が増えるもの。特に夏から秋にかけて生活がルーズになり、職員とも関係が悪くなり、いつの間にか園を出て行く、園を飛び出してしまふ子が数年前までいました。

しかし今はどうでしょう？「園を出て行く」「園を飛び出す」などの言葉は死語に近いくらい職員はそんな言葉も忘れ、子どもたちからも口にすることは全くありません。

それどころか何でも一生懸命、目を輝かせて頑張る姿が印象的でした。2 学期は愛育園大運動会、愛育園祭と大きな行事があり、その準備から片づけまで子どもたちと一緒に取り組めました。特に運動会の応援合戦は 3 週間の練習期間を要し、見ていただいた方々に感動を与えることができ、まさに圧巻の出来でした。

できないと思う心から、できると思う心になりました。初めから諦めるのではなく、やってみて工夫して達成させる。そして児童、職員が同じ気持ちになり感動を共有できるようになってきました。児童が職員に反発することがあっても対立し、いがみ合うことは無くなりました。

「行事の経験を普段の生活にいかしていくこと」この目標が少しずつ実行できています。行事という点が、行事と行事の間の生活にはりを持たせ、点から線に少しずつ変わってきました。そしてこの 2 学期、子どもたちにとって大きな出来事は東京ディズニーランドに行ったことでした。初めての夢の国は子どもたちにとって最高の場所であり最高の時間でした。その後に生活にも影響を与え続けています。

この 2 学期、子どもたちのキラキラした目で私たち職員と会話を通して楽しんでいる光景を何度も見てきました。親ではないが親以上に。家族ではないが家族以上に。関係を持てるようになってきたなと思えるようになりました。

平成 29 年も子どもたちとともにいろんなことにチャレンジし、ひと回り大きく成長した姿をお見せしたいと思います。本年もどうぞよろしくお願いします。

イルミネーションづくり

保育士 富沢正樹

去年に引き続き、今年も愛育園の敷地内をイルミネーションで飾りつけました。去年とは違うものにしようと思つた失敗を繰り返しつつ、出来上がったイルミネーションは、去年の以上の出来栄で、子供たちに楽しんでもらえることができました。

はしごをかけて、建物の壁に括り付けたり、木に巻き付けたり、見栄えを良くするために、木の剪定をしたり、イメージしたものを実際に形にしていこうとすると大変な作業になってしまい、私たち職員だけでは手が足りず困っていると、中高生の男の子たちが快くお手伝いを引き受けてくれました。また、実際やってみてイメージ通りにいかないところが出てきた時には、子供たちの方から新たにアイデアがでてきて、みんなの力を合わせてイルミネーションを完成することができてとても良かったです。

点灯式で、小学生や幼児さんが「うわー」と喜ぶ顔を見て、手伝ってくれた男の子たちと、頑張った良かったねと、喜びあいました。

また、西横田に住む皆さんからも、お褒めの言葉をいただき、園内だけでなく外部の人にも喜んでもらえてうれしく思います。

来年も、さらにパワーアップしたイルミネーションを考えて、子供たちや地区の皆さんに喜んでもらえるものを作っていきたいと思っています。

イルミネーション

あおぞら 保育士 佐々木 弘観

今年もイルミネーションの季節がやってきました。1 2 月に入り、街中にはちらほらとイルミネーションを飾りつけるお店やお家が増えてきました。

愛育園も去年に引き続いて、イルミネーションの飾りつけをしました。今年は子ども達も製作に加わり、昨年よりも大幅にバージョンアップしています！

なんと総数約 5 0 0 m LED 電球約 5 0 0 0 個を飾りつけしました。それまで、夜になると真っ暗だった愛育園の周辺は、青と白、周りの木々には淡い黄色と白色に光り輝き、子ども達からはワッーと歓声が飛



び交いました。

寒い中、学校や部活、アルバイトなど日々頑張っていて疲れて帰ってくる子ども達を温かく迎えてくれています。昨年に引き続いてイルミネーションは大成功！！毎年子ども達がこの時期を楽しみにしてくれる様に、子ども達からもたくさんのアイデアをもらいながら、来年度は更なるパワーアップをしていきたいと思えます。

イルミネーション

保育士 藤本 諒一

今年も去年に引き続き、愛育園の建物の周りに色とりどりのイルミネーションを無事に点灯することができました。職員で様々なデザインを考え、いざ電球を木や壁などに這わせていって子ども達が夕ご飯を食べている時や寝静まった頃に何度も試験点灯を繰り返し、子ども達を去年以上に喜ばしたい一心で試行錯誤を重ねました。

作業していく中で私が難しく感じたのは、木に電球を巻きつけていく作業です。初めのうちは、枝に沿ってやっていけば良いものだとばかり思っていました。実際やって点けてみると、どうしても木が立体的に出来なくて苦労しました。最後は他の先生方や中高生の協力していただき完成させることが出来ました。中高生たちも、部活やバイトなどで疲れているのに寒い中、快くいろいろと手伝ってくれました。



点灯式当日、子ども達は早く見たくてワクワク、ドキドキしていました。そして電源を入れると、愛育園の庭には歓声や拍手でいっぱいになりました。この声を聞いて、来年も今年以上に凝ったものや、もっと子ども達が喜ぶようなイルミネーションを作りたいと思えました。

イルミネーションづくり 児童感想

イルミネーションを飾るために、先生たちの手伝いをしました。木に巻き付けるために、枝や葉っぱを切り落とす手伝いをしましたが、たくさん切ってもイルミネーションが隠れてしまってもうまくいきませんでした。なので、予定を変更して、玄関の壁からカーテンのようにイルミネーションを下げるようにしました。何本もあって、絡まってしまったイルミネーションをほどくのが大変だったけど、みんな1本1本もって上手に行きました。

大変だったけど、点灯式で、小学生や幼児さんが喜んでくれて嬉しかったです。また来年も手伝って、いいものを作りたいです。高1 男子

クリスマスツリー・クッキー作り

まごころ 竹内早季

先日、愛育園にサンタさんからのお手紙が届きました。子ども達は近づいてくるクリスマスにうきうきしています。園内もクリスマスらしい飾りつけがいたるところに施されています。その中で、私は食堂に飾るクリスマスツリーと、そのツリーに飾るクッキーの準備を子ども達と行いました。まず、クッキー作りですが、普段なかなかお菓子作りをする機会が無い子ども達は始まる前から興奮気味で、色のついた生地を見て「これ



何味？」「どういう形にしよう？」と身を乗り出していました。いざ始めると、高学年は型抜きでいろいろな形を作り、違う色の生地をくっつけてマーブル模様を作ったり、クッキーマンの顔を作ったりして思い思いのクッキーを次々に作っていました。低学年は生地の感触が楽しいのか粘土遊びのようになっていましたが、上手く型が抜けると「見て見て！」と嬉しそうに見せてくれました。子ども達の中で先日のディズニーランドの印象が強いのか、キャラクターを作った子どもも多かったです。その後、クッキーを焼きあげてもらい、チョコペンなどでデコレーションしてからツリーに飾りました。モールやプレゼントの飾りなども一緒に飾り、完成すると子ども達はにこにこで達成感で満ちていました。低学年はサンタさんが外からも見えるようにしなきゃ！とツリーの裏側まで飾っていて、サンタさんが来てくれるのを心待ちにしているようでした。子ども達のわくわくをもっと盛り上げていきたいです。

クリスマスクッキー作り

調理主任 伊藤 慈子

12月4日の日曜日に、幼児さんと小学生と一緒に、クリスマスクッキー作りをしました。いろいろな型で抜き、焼いてデコレーションしたたくさんのクッキーに、糸を通して、食堂に出した大きなクリスマスツリーに飾りました。これは毎年の恒例行事です。

クッキー生地は先に調理で、プレーン・抹茶・ココアの3種類用意し、食堂のテーブルを調理台にして生地を伸ばし、用意しておいた大きめの抜き型で子供達が作り始めました。型で抜



いたクッキーを次々にでき焼き始めると、子供たちはそのうち、まるで粘土遊びかのようにこねはじめ、思い思いの形を作り始めました。どんどん作りたいものが出てきて、みんな楽しそうでした。今度は、焼きあがったものにデコレーションをすることに…、でもチョコペンが少なく困っていると、調理で『アイシングを作りましょう』ということになり、早速発案の先生が作り始め、せっかくだから色も何種類か作ろうということになり、食紅を使いオレンジ・黄色・ピンクの3色を用意しました。子供たちは『これなに？』と、楽しそうに使っていました。一緒に作っていてそんな姿が、ほほえましく思いました。

そして、デコレーションが終わったら、子供達お待ちかねのお茶会です。飾るもの以外のクッキーをジュースと共に食べました。自分が作ったものを食べられた子は少なかったですが、どういうものを作ったとか、誰が作ったとか、先生たちと一緒に楽しく話していました。

そのあと、デコレーションしたクッキーを、大きなクリスマスツリーに飾りました。クッキーを焼く前にストローで穴をあけておいたので、そこに糸を通し結び、ツリーに掛けました。大きめのクッキーなので、大きなツリーに映えて、素敵になりました。一緒に他のツリーの飾りも飾り、とても豪華なクリスマスツリーになりました。このままクリスマスまで飾ります。夜には、点灯すると、もっと素敵になりました。クリスマスに向けての、最初のとても楽しい行事でした。

クリスマスイベント

保育士 小林礼

12月中旬、少しずつクリスマスが近づいてきて子供たちはソワソワ。その裏では園のクリスマス会の計画が職員たちの間で進められており、いくつかアイデアが挙がりました。子供達が楽しんでくれるよう去年と内容がかぶらないものをいくつか考え必要なものを揃えました。挙げたアイデアはグラスハーブとパネルシアターです。私自身とても楽しみでワクワクしていました..が！当日私は私用でクリスマス会に参加できませんので準備に全力を注ごうと決めていました。図書館に集まって練習と準備を進めていく中で職員同士案を出し合い作業を進めるのはとても楽しいと感じました。皆で協力し合い一丸となって一つのことをきずきあげていく楽しさと爽快感を愛育園に来てからのこの一年間で何度も味わいました。どんなに時間がなくても子供達の喜ぶ顔を見る為に先生たちは皆一生懸命用意をします。そんな職員がそろっている愛育園はとても素敵だなとその図書館



での作業の様子を見て強く感じました。さて、準備と用意はばっちりです。当日、私は参加出来ませんでしたが後から様子を聞くとクリスマス会は大成功！子供達のとびきりの笑顔の写真が何枚も送られてきました。嬉しかったと同時に当日頑張ってくださった先生方に感謝の気持ちでいっぱいです。この愛育園のクリスマス会をきっかけにとっても良い雰囲気



愛育園でもクリスマス会

まごころ 保育士 渡邊 梓

「クリスマス」一年の中で子ども達が一番楽しみにしている日ではないでしょうか。愛ついにクリスマス会の日がやってきます。今年は何をしようか、と先生方と相談を重ね、決まったのがパネルシアターとグラスハーブです。どちらも私にとって初めてで、ドキドキと不安でいっぱいでした。本番までは練習する時間が少なく、全員で集まって合わせることもなか



なかのも一苦労でした。音がそろった所で、「いざ、奏でよう！」と意気込んでグラスの淵を指で出来ませんでした。特にグラスハーブはみんなが初めての挑戦で、水を入れて音を調整するなぞりませんが、全く音が出ません…。たくさん水をつける方が良いですよ、力を入れずに撫でるように、などと先生方からアドバイスを頂き、なんとか安定して音が出るようになりました。一音でも美しいグラスハーブですが、それぞれの音が響きあった時は、さらに美しく聴こえます。本番では、緊張

と指の乾燥から一発で良い音が出ませんでした。アンコール演技という事でもう一度演奏でき、子ども達に見守られながら最後の音が響いたときには、皆で成功を喜びあい、愛育園の温かさを改めて感じました。年に一度のクリスマス、大人になってもワクワクする楽しいものになりました。

クリスマス

主任保育士 石崎 早織

12月11日。午後私が勤務に入るなり、小学生の女の子がすぐに私のところへ来て、「先生！！

今日ね朝みんなでご飯を食べていたら愛育園の電話が鳴って、青谷先生が電話に出たら、サンタさんからだったんだよ！！電話が終わった後に、先生と中高生の男の子がミニグラに行ったら、サンタさんから手紙が届いていたの♪」と、とっても嬉しそうに教えてくれました。手紙にはサンタさんからのメッセージとプレゼントを書くカードが入っていたようです。またサンタさんへ届くポストは12日の朝しか出ていないと書いてあったようで、幼児さんや小学生は一生懸命自分の欲しいものをカードに書いていました。そして12日の午後。子ども達が学校から帰ってくると「ポストに手紙を入れたよ〜！」と、これもまた嬉しそうに話をしてくれました。それからプレゼントが届くまでの間、「サンタさん来るかな〜？」「お願いしたものはあったかな〜？」など、みんなそれぞれサンタさんが来ることをとても楽しみにしていました。サンタさん効果もあり、子ども達はサンタさんが来てくれるように、自分のやることを一生懸命取り組み、落ち着いて生活を送っていました。

24日の夜。この日は休日の為小学生の就寝時間は21時ですが、早く寝た子からサンタさんがプレゼントを届けに来てくれることがわかり、「今日は20時には寝る！！」と張り切っていました。そして25日の朝。子ども達から起きてホールに行くとプレゼントがたくさん並んでいました！！「あっ！！プレゼント来てる！」とニコニコ笑顔。いつも以上にパジャマから



服に瞬間着替え！！みんなでプレゼントを開けて、「やったー！！」と嬉しそうな歓声が上がりました♪

愛育園の子ども達は今年もサンタさんが来てくれて大喜びでした♪サンタさんありがとう！！来年もみんなでサンタさんが来てくれるのを待っています！！

クリスマス児童感想

12月25日の朝にはサンタさんからプレゼントが届きました。12日の朝にポストが届き、幼児さんと小学生全員でほしい物リストを書き、ポストお手紙を入れました。ドキドキワクワクしながら25日の朝を待ちました。朝起きると、とても素敵なプレゼントが届いてとても嬉しかったです。大切に使いたいです！！(小6H・W)

12月25日の朝にサンタさんからプレゼントが届きました。2週間く

らい前にサンタさんから手紙が来て自分が欲しい物を手紙に書きました。私はすごく選ぶのに迷ったけど、自分が欲しい物を書きました。クリスマスの朝にそよかぜのホームにプレゼントが置いてあったのでびっくりしました。プレゼントが届いて、とても嬉しかったです。(小4S・Y)

しめ縄作り クリスマス会

保育士 近藤 典雄

12月18日今日は横田地区でしめ縄作りとクリスマス会が行われました。地区のPTAの方やしめ縄を指導してくれる方が来援されてしめ縄作りがスタートしました。毎年の行事で慣れている子もいればなかなか上手いかずなかなか編みこめない子もいましたが新しい新年を迎えるためにみんな真剣に取り組んでいました。終わった頃には何個も作った子もいれば一つにしめ縄を丁寧に作っている子様々なしめ縄が出来上がりました。

終わって今度は図書館に場所を移してクリスマス会が行われました。ケーキやジュースでみんなだお祝いして楽しく過ごすことができました。来年もいい年になるそうみんな頑張っていて欲しいです。

ステーキ会

栄養士兼調理員 原 未華

12月17日にステーキ会をしました。今年の5月にも行いましたので、年内で2回目となり、今回も素晴らしいステーキ肉をいただきました。中高男子と先生方中心で火を起こしたりと準備をしてくださいました。



<http://enpukuji-aiikuen.com/> ホームページでもご覧ください。

私たち調理はステーキの付け合せで人参のグラッセ、フライドポテト、ほうれん草のバターソテーを用意しました。前は外でステーキを焼いてそのまま外で食べていましたが今回は12月中旬ということもあり、外でステーキを焼いて食堂で食べることになりました。

いざ、ステーキ会がスタート。「まだかまだか」と席に着きながらも外の様子を気にする子どもたち。すると次々と「ジュー」と音を立てながら大きくておいしそうなおステーキが子どもたちの目の前に。一気に子どもたちは自然と笑顔になりました。中にはあまりのステーキの大きさに驚いている子もいました。子どもたちは最初から最後まで笑顔で大満足でした。食堂中、ステーキの香りが広がりました。中高生も準備から片付けまで本当によく動いてくれました。

素晴らしいステーキ肉を提供していただいたことに感謝します。本当においしく楽しいステーキ会となりました。

ありがとうございました。

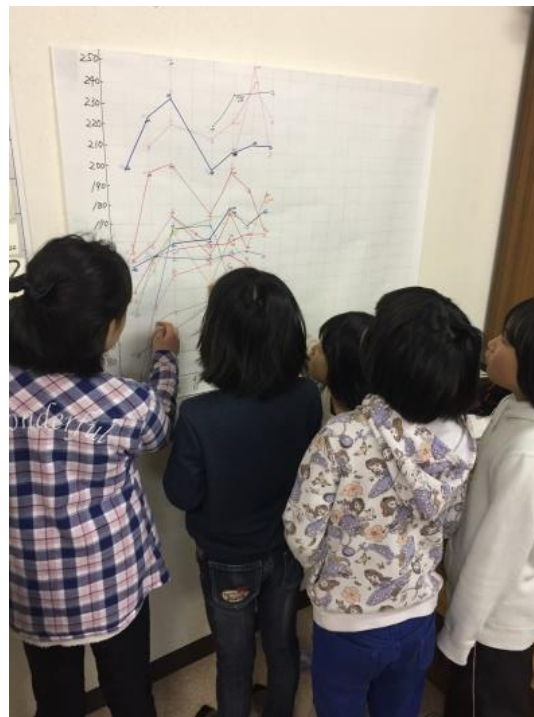
箸ピー大会に向けて

1月に行われる、箸ピー大会に向けて、子ども達は毎日練習に励んでいます。初めは、なかなか上手く豆を運べず、悔しがったり、苦戦する様子が多く見られました。しかし、毎日前向きに練習に取り組む子ども達は、少しずつではありますが、着実にスピードアップし、記録を伸ばして行っています。記録が伸びれば、「今日、記録更新したよ!」「200個越えたよ!」と嬉しそうに教えてくれます。練習に対する気持ちは本当に強く、練習中の表情は真剣そのものです。また、きちんとルールに沿って練習を行い、ルール違反をする子は誰一人いません。箸ピーの記録を伸ばすためには、持ち方も大切です。正しく、力強く握らないと、なかなか思い通りに豆は運べません。中には、正しく箸を持っていない子もいます。箸ピーを通して、正しい箸の持ち方と集中力を身に付け、更に記録を伸ばして行ってくれるといいな、と思います。愛育園の箸ピー大会まであと1ヶ月あるので、向上心を忘れず、更に上を目指して、練習に取り組んでほしいと思います。

夢 作 文

今年度、入江先生の研修最終回に当たり、夢作文を書きました。紙面をお借りして発表させていただきます。

まごころホーム 保育士 加藤ゆかり



子どもたちは毎朝、グラフに表された記録を比べて楽しんでいます。

石黒 玄章

(平成29年1月10日発行 月刊「円福」486号付録 昭和52年5月25日第三種郵便物認可)

私は、世界を仏教の世界に誘いたいです。私はお坊さんになって人生が開けました。そして、今も幸せな生き方を学ばせてもらっています。このような尊い教えが世界に溢れば、争いは止み、苦しみから解放される世界が広がります。デイズニーランドのイツアスモールワールドを体験して、皆さまは幸せな気持ちに満たされませんか？国や性別や言語が違えども、皆、同じ人間です。永平寺を開かれた道元禅師さまも「眼横鼻直」眼は横、鼻は真っ直ぐとお示しになられています。この当たり前の事が解らないが為に、人々は争いあいます。混迷の社会に、少しでも平穏な社会が訪れるように、日々祈りを捧げる毎日です。

では、なぜこのような事を私が考えるかという、生まれつきに身体的ハンデを持っていたからです。何故人と違うのだろうか？これは、幼少の中での究極の課題でした。しかし、両親を始め、周りの人たちは皆親切で、私は何も違いは無いと勘違いをしてしまうほど、周りと一緒に生活してきました。しかし、私自身の根本的な解決にはなりません。そこで出会ったのが仏教の教えです。仏教の教えは、悩み苦しむ人を迷いから抜け出させてくれる尊い教えです。仏縁に恵まれ出家までさせてもらい、修行に出ました。しかし私の「我」は抜け切れず、師匠の叱咤激励もあり、再度修行の道に進みました。そこで出会った正師を始め、多くのご縁で、私の僧侶として生きる道は揺ぎ無い物となりました。

ここまで幸せに生きてこられたのも、多くの人の「おかげさま」しか有りません。その報恩感謝に報いるためにも、毎日何でも元気に笑顔で一生懸命生きる。履物を揃えて、足元を常にしっかり見る。を心がけて、自分が死ぬ時に、いい人生だったと思えるように、後悔が無い様生活していきます。

